

令和3年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」

第4回「ポストコロナ時代における環境学習の新たなチャレンジ

自然界の〈ハーモニー原則〉のレッスン～予測困難な未来のESDを導く～

□実施日時 令和3年9月27日（月）15時30分から17時30分まで

□受講者数 23名（教員8名、自治体職員等9名、研修6名）

□実施方法 Zoomを使用したオンライン開催

（配信場所：本社会議室）

□実施内容

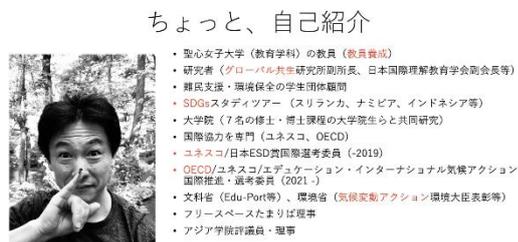
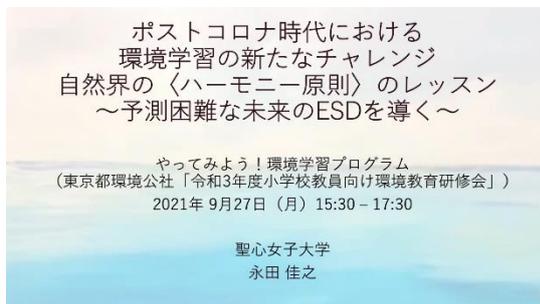
1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明

2. 講師からの講義（講師：聖心女子大学教育学部教授 永田 佳之先生）

（1）ESDとは

- ・環境だけではなく、経済と社会と文化を入れたコンセプト
- ・環境問題は環境だけを見て解決できなかった歴史がある（1970年代から90年代）
- ・環境保全・保護をやっているのに環境破壊が進む←経済、社会、文化を見てこなかったため
- ・そこで経済、社会、文化をきちんと眼差した上で環境も見ていこうということがESD



（2）講義内容

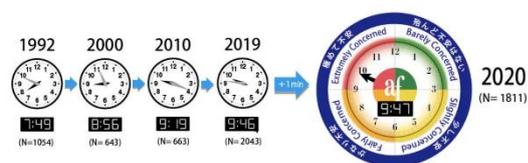
- ・現代社会の特徴は何か？ESD：持続可能な未来を創るための教育として考えていきたい。
- ・環境機器時計 旭硝子株式会社による環境への危機意識の調査
1992年地球サミット 危機感を共有 → 昨年危機意識が最も強い。
- ・共生は古くて新しい課題。制御不可能なのか？ゴジラ、ナウシカ、天気の子
- ・人新生に入ったのではないかとされている。残された時間はあと10年か？
- ・声を上げる若者たち…

我々はどこから来たのか
我々は何者か
我々はどこへ行くのか



環境危機時計

2020年の環境危機時計®の世界平均は9時47分となり、調査開始以来最も針が進んだ2018年と同時刻。



※29日「地球規模気候と人間の存続に関するアンケート」調査結果発表
https://www.af-info.or.jp/ed_clock/news/29.html

- こんな時代に必要な教育とは？

こんな時代に求められるのは、
どんな教育ですか？

チャットまたはミュートを外してで意見を！

👁️🗨️

永田先生→難しいけど、、、一歩先を行く環境教育！

- 自然と人間の関係の再構築

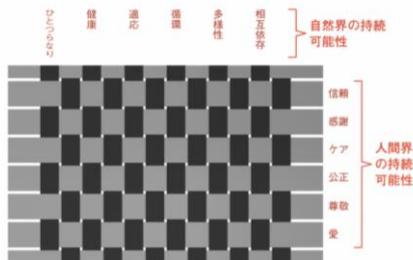
ポスト・コロナ時代のチャレンジ

- 自然について学ぶ (Learning about Nature)
 - 自然の中で学ぶ (Learning in Nature)
 - 自然から学ぶ (Learning from Nature)
- 自然界から学ぶことが必要

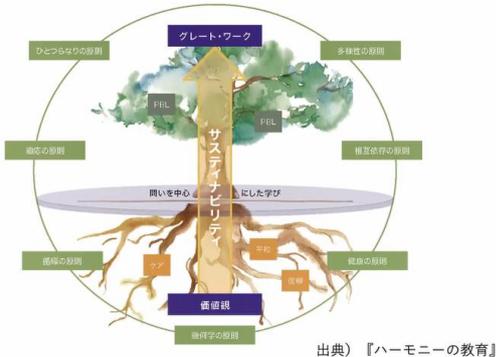
色々なハーモニーの諸原則



織り成す 原則と価値観



ハーモニーの教育



出典) 『ハーモニーの教育』

持続可能な共同体づくり
サステナブル・スクールのための8つの扉



永田佳之・曾我幸代
『新たな時代のESD
サステナブルな学校
を創る』 朝石書店

- アシュレイスクール：生徒一人ひとりが自分の言葉でサステナビリティが語れる学校、良質な問いを与える学校
- 学校が地域でサステナビリティの拠点になる構想。

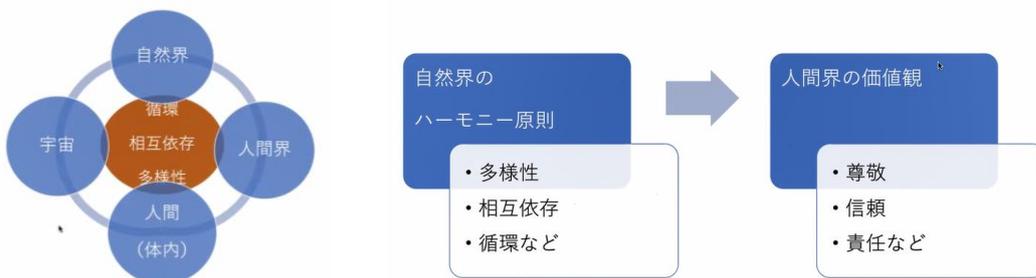
- ・ 8つの扉で既にやっていらっしやることはあるのではないでしょうか。

すでになさっていること、
これから出来そうなこと、
ありますか？

大事なのは全体性
体系だてられているかどうか・・・

永田先生→ハーブガーデン！

- ・ 持続可能な未来への6原則
- ・ 森の中の相互依存、森の多様性、循環、森の中の適応、森の中の幾何学、ひとつらなり
全体性を育む 自然界にならう



- ・ 個人ワーク
すでにご自身でやっていることの意義づけ。相互依存、多様性、循環の取組。
例：聖心女子大学、ぐうたら村

色々な循環

- ・ カエルのライフサイクル (The life cycle of the frog)
- ・ 四季における木の循環 (The cycle of trees through the seasons)
- ・ 渡り鳥の循環 (The migratory cycle of birds)
- ・ ニワトリと卵の循環 (The cycle of the chicken and the egg)
- ・ 血液の循環 (The circulation of blood around the body)
- ・ 種から草木、花、実、種へと変わる植物のライフサイクル (The plant life cycle from seed to plant to flower to fruit to seed)
- ・ 人間のライフサイクル (The human life cycle)
- ・ 月の循環と月の満ち欠け (The lunar cycle and phases of the moon)

→自然環境や地域資源を活用する環境教育から視野を広げる。

(3) まとめ



出典) 日本ホリスティック教育協会「つながりのちから」2010

→私たちは自然の一部であり、自然そのものである。

教師もシフト

これまで

- ・ 知識をたくさん持っている先生
- ・ 生徒の質問に答えられる先生 (正答を携えている先生)
- ・ 強い (強そうに振る舞える) 先生
- ・ 成長する先生

これから

- ・ 好奇心旺盛な先生
- ・ 正答のない問いを生きる先生
- ・ 等身大の先生
- ・ 変容する先生

3. 質疑応答及び感想

- 生徒に話したときに明るくない未来を示してしまうことになる。現実を知ることには必要だけれども本当に責任のない年代の子どもたちに話すことへの戸惑い…具体的にどうしたらよいか？ハーモニーというお話に今までと違うやり方があることを知った。明日からどう変えて行ったらいいか…。自分があと10年と言ったときにどうしたらよいか？
- 世界中の教育の課題。事実を隠すのではなく、発達段階に応じてしかるべきやることがある。世界には希望を捨てないでがんばっている先生方がいる。地球がもつかどうかは誰にもわからない。希望は人間に与えられた最後のチャンス。そこはサイエンスでも入れないのが人間の本質。小さなことでも子どもたちと希望を分かち合う営みを作るのが教師の役割。学生とどうなるかわからないけどがんばろうという営みは作れる。データを隠していないけど希望を持てる学生との関係性を作る。先生が希望を持っていないことが問題。希望が見出しにくいけど希望が持てるプロジェクトは希望のきっかけとなる取組は作れる。先生が希望を創出していくのはこれからとても大切なこと。空元気とは違う。教員だから今の状況はわかるけど、されど、教員がサステナビリティを生きられるか。ハーモニーは円環的で曼荼羅的なのでサステナビリティのように持続しないことはない。
- 幼稚園の教員から大学の教員になった：ハーモニーの概念についてわかりやすい本はハーモニーの教育か？ハーモニーを自分が伝えるときの指標になるものを教えてほしい。
- 実感が持てるものを学生と共有すること。壮大な物語ではなく、小さなことでも意義があることをやるのが大切。プロジェクトを始めることはとても良い手段。最後に発表をして失敗も笑うことができるのはプロジェクトベースラーニング (170・171頁)、最後に評価が気になることが多いと思うが、気候変動の時代を生きるという本の最後に自己評価表がついている (36頁、156頁)。日本の先生はとても優秀なので、方向付けが普段多忙な中でどうやっていくか。共生科という取組はとても良い。
- 感想：永田先生がやってられないと思うときがあるとおっしゃったのが染みた…。教員とか関係なく一人の人として葛藤している姿を生徒一人ひとりとの関係性の中で接していけるか見せて行けるか、葛藤はあるけれどもここにかけけているという生き様というかわりなかなと受け止めました。
- やってられないという瞬間はあるけど生徒とは共有しないようにしている。進まないことがたくさんあって…でもその時にネットワーク、国境を超えてつながっている人たちがいて、希望のない中でがんばっている。一人ひとりのポテンシャルははかり知れないことはあるが、世の中捨てたものではない。と思わせる人たちがいて、そのポテンシャルを信じている。でも歩んでいこうと思う人たちがいることが希望。

4. 事務連絡

事務局からアンケートのご案内、解散